

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
身体表現Ⅱ Physical Education of Young Children Ⅱ		1年	後期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
1単位	演習	選択	(保育士養成課程必修・教職課程必修(幼稚園教諭二種)「2級幼児体育指導者」「ジュニアスポーツ指導員」「スポーツプログ	児童フィールド以外の学生は受講者人数の制限がある
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
保育内容健康、子どもの保健Ⅰ・Ⅱ				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
資格取得に必要な科目				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
加藤 秀治	本館2F	授業中に指示する		授業中に指示します
授業の概要				
現代園児の体力向上には、身体活動量の増加がキーポイントとなる。現代園児の一日の身体活動量は、屋内遊びの増加が大きな影響を及ぼし減少傾向にある。この講義では、①園児が楽しくまたやってみたいと感じる運動遊びを、多数紹介しそれが身体活動量の増加につなげる手段になることへの理解 ②保育者・指導者自身がその楽しさをうまく伝えることのできる技能の習得 ③園児との運動遊びを通じたコミュニケーションのとりかたなどを学ぶ。				
授業の目標				
①運動発達の順序を知り、年齢の違いによる運動動作の違いが理解できるようにする。 ②自分を保育者または指導者の立場に置き換え、受講者が楽しいと思えるような授業を作り上げることができるようにする。 ③保育者や指導者は、園児に多種多様な運動遊び種目を提供するのみならず、自分自身が正確にその見本を示せることができるようにする。				
授業の方法				
実技指導、学生同士による模擬指導(指導者と園児役になる)、DVDによる視聴覚教育				
学習の成果(学習成果)				
①園児の加齢に伴う運動の発育発達に応じた、運動遊び指導のプログラムを構成することができる。 ②園児が安全に運動遊びを行えるような、環境整備をすることができる。 ③園児にからだを動かすことの楽しさを伝えることができる。 ④運動会行事を計画し実施する能力を身につけることができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス(受講にあたっての服装や態度と注意点、授業内容の確認、成績評価方法) 身体表現Ⅰで学んだ内容の振り返り			
第2回目	鉄棒を使った運動遊び指導①(ぶら下がり系・支持系の鉄棒遊び)			
第3回目	鉄棒を使った運動遊び指導②(回転系の鉄棒遊び 逆上がりの指導法)			
第4回目	鉄棒を使った運動遊び指導③(ぶら下がり系・支持系・回転系の鉄棒遊び、逆上がりの技能の習得)			
第5回目	ボールを使った運動遊び指導①(ボール遊びのいろいろ)			
第6回目	リズム体操①(やさしい体操を覚える)			

第7回目	リズム体操②（やさい体操の発表）
第8回目	手具を使った体操①（鳴子・リボン）
第9回目	乳幼児の救急法 乳幼児への心肺蘇生法・気道内異物の除去（DVDによる視聴覚教育）
第10回目	長なわを使った運動遊び指導 ダブルダッチ
第11回目	長なわを使った運動遊び指導 長なわを使った伝承遊び
第12回目	短なわを使った運動遊び指導 前回旋順跳びの指導プロセス
第13回目	棒を使った運動遊び指導 幼児のコーディネーショントレーニング（幼児の調整力向上運動遊び）
第14回目	鉄棒・短なわの実技試験①
第15回目	鉄棒・短なわの実技試験②

成績評価の方法と基準

評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	60%	・協調性をもって授業に臨む姿勢。 ・技能の習得に対して前向きな姿勢。 ・用具の準備・片付けなどに積極的に参加する。
レポート		
調査報告書		
小テスト	30%	実技試験＝鉄棒（あしぬきまわり・しりぬきまわり・前まわり下りの補助・逆あがり）、短縄（交差とび・あやとび・応用交差とび・二重とび）
試験		
発表内容（態度含む）		
その他	10%	スポーツを行うに適した、服装やシューズが用意されている。

教科書と参考図書

教科書：「幼児体育教本」（同文書院）
 参考図書：「0～5歳児の運動あそび指導百科」（ひかりのくに）、「キンダーコーディネーション」（全国書籍出版）、「園児いきいき体育あそび200選」（かもがわ出版）

履修上の留意点・ルール

- ・指輪、ピアス等の装飾品は授業前にとること
- ・体育館への食べ物と携帯電話の持ち込みは禁止
- ・協調性ある態度でのぞむこと